NEWS　RELEASE

国土交通省

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先
（所属）　海事振興部船員労政課
（担当）　吉武、武田
（電話）　06-6949-6435

平成３０年５月２５日

内航船員の確保・育成対策
茨木市立天王中学校にて出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が５０歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、中長期的視点に立った取り組みの一環として、近畿管内の各中学校を対象に出前講座を実施しています。

今般、平成３０年５月１４日（月）に茨木市立天王中学校において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：平成３０年５月１４日（月）
対象中学校：茨木市立天王中学校
　　大阪府茨木市沢良宜西３丁目８番５号
対象者：２年生　１１名
講師：近畿内航船員対策協議会　会長　上窪　良和　氏
講義内容：海運の重要性と船員の仕事について
配布パンフレット等：

- 「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）
- 「これが内航海運だ！」（　〃　）
- 「船ってサイコー！」（一般社団法人日本船主協会）
- 「内航船の船乗りになろう！～現職船員からの応援メッセージ～」（国土交通省）

配布先：海運関係業界プレス

茨木市立天王中学校で
出前講座（５回目）を実施しました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：上窪良和　田渕海運(株)顧問）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてＰＲし、海の仕事や船に対する子供達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、平成３０年５月１４日（月）、茨木市立天王中学校において「出前講座」を実施しました。同校での出前講座は、平成２６年度から継続して５回目の実施となります。

当日の出前講座は、同校の「職業聞き取り学習」の一環として実施し、「海運の重要性と船員の仕事について」の講話には２年生１１名が参加しました。なお、その他にも消防士や保育士、調理師、獣医など全部で１１もの業種の職業講話が実施されていました。

講話は、上窪会長を講師として、日頃、海運や船員に接する機会の少ない生徒に「海運」がなぜ重要か「船員」はどのような仕事をしているかについて、黒板へ図で解説したり、世界地図を使うなどわかりやすく説明しました。

まず、海運業は物流業の一つであり、船に荷物を載せて、ある場所からその荷物を必要とするところへ運ぶことにより、その荷物の価値を高める産業であるとわかりやすく説明し、海運の仕事は無くてはならない仕事であると伝えました。

また、海に囲まれた日本の特色として、資源が少なく輸入に依存していることを挙げて、海運は安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。具体的に、輸入品の主要６品目をクイズ形式により１位から順番に生徒から候補品目を発表してもらいながら解説し、船で運ばれた物資が身の回りでなくてはならない必需品として、活用されていることを話しました。今回はめったに当たることのない第２位の品目（石炭）を生徒が当てたため、教室内は大いに盛り上がっていました。

次に、生徒へ配付していた資料の（一社）日本船主協会発行「船ってサイコー！」を活用し、冊子にはいろんな船が掲載されており、それぞれの船の特徴を説明しました。特に大型石油タンカー（ＶＬＣＣ）を示しながら、船は一度に大量の物資を運べるが、速度が遅く、物資の輸送に時間がかかってしまうことから、船員は、その間何日も船に乗ったまま仕事をし、船で生活をしなければならないことを説明しました。

次に、船員の仕事は、大きく分けて、ＧＰＳなどの航海計器を使用して船舶を操船し安全に運航させる仕事と、船舶のエンジンや発電機などの機器の管理、保守整備を行う仕事に分けられ、操船の仕事では、以前は、航海中の船舶の位置を把握するため星と船舶の高度を測り、位置関係により難解な計算から船の位置を割り出していたことを説明しました。現在はＧＰＳで容易に船舶の位置が確認できるようになり、その他航海計器の発達により労働負担が軽減したことも紹介しました。

生徒にとっては聞き慣れない言葉も多く、難しく感じたところがあったかもしれませんが、

講師から、船長として船員の仕事に携わっていた時の話として、世界地図で航路を示しながら、大きな外航船でアメリカ東海岸から大西洋を進み日本に戻るにあたり、３５日間かかることを説明し、海と空ばかりが続く中、南アフリカの希望峰が見えたときに、帰国までもう少しと安心したエピソードの話をすると、生徒は講師の話に聞き入り興味を示していました。

講話終了後には、生徒から講師に対する質問では、「船員さんのやりがいとは何ですか」「給料はいくらぐらいですか」「遭難したことはありますか」等の質問がありました。それらに対して、一つ一つ丁寧に回答をし、特に「遭難したことはありますか」の質問については「遭難していたらここにいないです。」と冗談を交え、体験談として航海中に台風に追いかけられ、遭難しかけたことを説明しました。また、最後に生徒からの質問にはなかったのですが、海賊に遭遇した話をし、生徒たちは特に興味を示していました。

今後も、海運の安心かつ安全な輸送のためには十分な船員を確保する必要があることから、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのＰＲ活動を積極的に行い、「船員」の仕事が将来の職業の選択肢の一つとなるよう引き続き活動していきたいと考えています。

（近畿運輸局　海事振興部　船員労政課）